

製本のススメ

Vol. 187

ようやくワクチン接種が日本でも始まりましたね。何しろ初めての体験ばかりで、国も自治体も医療機関も、世界中がてんやわんやです。しかし悪い事ばかりでもなく、日常生活を送るにあたって「大切な事」が明確に見えてきたのではないのでしょうか。嫌な通勤も「有意義な運動だった」と気付かされますね。

今回は**製本工程から見た造本企画の注意点**の話し

最近手作り本を趣味として楽しんでいる人が増えてきたようで、特にコロナ禍で時間ができ、じっくりと作り込める本づくりは、楽しみの一つとしても悪くありません。手作業であればどのような本でも作ることができますが、現在の工業的な製本技術は大量の本を安価で作ることを目的に発展してきた経緯があり、その為 **手作りの製本技術とは手法も目的も異なっていて、どのような物でも本にできるという訳ではありません**。高度な印刷技術を駆使していても、製本工程の条件にそぐわないのであれば、製本側から見れば不良品と言わざるをえません。

オフセットの一般的な冊子であれば、よほどの事が無い限り問題は発生しませんが、昨今インターネットの普及等により一般の方々にも造本に関する知識が広まり少々個性的な加工が増えてきました。そうすると印刷は出来ても加工上不具合が出るばあいが多く、持ち込んだ製本会社から断られるという事もあります。殆どの場合には加工できないわけではなく「納期が間に合わない・製品精度のクレームに直結する」が理由です。つまり大きな時間と費用が必要になってくるわけです。そこを企画段階で客先に理解してもらう必要があります、安請け合いは禁物です。

さて次回から具体的な例題を用いて造本のマネジメントをお伝えしていきます。顧客の方が加工に詳しいという事無いように、また代替え案の提案ができるように「あなたに役立つ情報」をお届けしていきます。



Tea break

先日 TV番組でひな人形の職人さんたち取材しており、その中で衣装を作る職人さんの背景に、綺麗な布材料が写り込んでいました。お気づきかどうか分かりませんが、弊社のお正月用年賀**×モ** この表紙に使われているのが雛人形にも使われる生地たちです。毎年 夏ごろに柄を決めて注文をしているのですが、流行りの柄は、なかなか手に入りません。結構 熾烈な獲得競争があるのです。今年も頑張りますよー(笑)

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本